

# 「褥瘡ゼロ」へ向けた対策について

～「車椅子座位」に着目した取り組み～

長崎県 恵仁荘

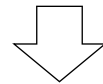
理学療法士 内田佐貴子

# はじめに

これまで褥瘡予防に対する対策を行ってきたが、ケース対応に終わり、施設としての効果を出すには至らなかった。

今回、車いす座位での褥瘡ゼロに向け取り組みを行った。

H24 褥瘡発生数	52件
うち仙骨下部・尾骨の褥瘡件数	23件(44%)



起因：車椅子上での不良姿勢

仙骨下部、尾骨部周囲の褥瘡に着目し、  
車椅子座位姿勢の改善による「褥瘡ゼロ」を目標として取り組んだ。

# これまでの取り組み

## ①施設内研修（職員会議）

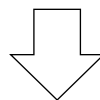
⇒車いす座位不良姿勢の座圧について

## ②車いす座位への対策周知（朝礼・昼礼など）

⇒褥瘡委員会から看護・介護・リハスタッフへ

## ③クッションや車椅子の選定（リハビリスタッフ）

⇒個々に合った車椅子、減圧クッションの選定



しかし仙骨下部の褥瘡を減らすことは出来なかった

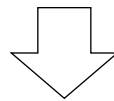
# 原因追究

Q:なぜ褥瘡件数は減少しなかったのか？

I :職員によっては高リスク者の認識が不十分であった。

II :正しい座位姿勢への介助方法の理解が不十分であった。

III :高リスク者の車椅子上での不良姿勢に対し、座り直しが確実に実践できていなかった。



褥瘡保有者の減少に繋がらなかった

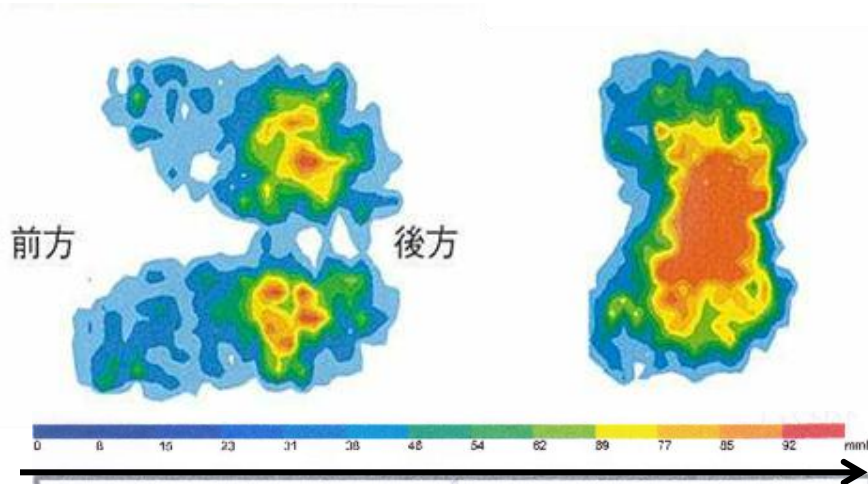
# 車椅子座位での不良姿勢とは？



良好な姿勢



15cm前方へ滑らせた  
不良姿勢



青色～赤色になるにつれて体圧が高い

# 新たな取り組み①

## 褥瘡リスクの評価

評価項目	体位変換	病的骨突出	浮腫
	拘縮	感覚	湿潤

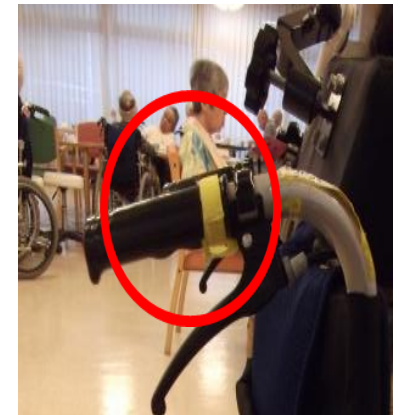
	人数	褥創保有者
低リスク	46名	0名
中リスク	29名	0名
高リスク	25名	7名

## 高リスク者の把握

車椅子グリップ部分に**タグ**の設置



高リスク者



保有者

## 新たな取り組み②

看護・介護職員への意識調査 N=40

### 【アンケート内容】

- 1)「座り直しに対する意識はあるか？」
- 2)「座り直しを積極的に行っているか？」
- 3)「高リスク者等の把握が出来ているか？」

評価方法:VASスケール(0~10で、主観的評価)

### 研修会の実施

知識・介護技術の向上を目的に外部講師を招いて褥瘡予防についての研修会を開催。

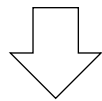


# 結果① 褥瘡件数の比較について

部位：仙骨下部及び尾骨部

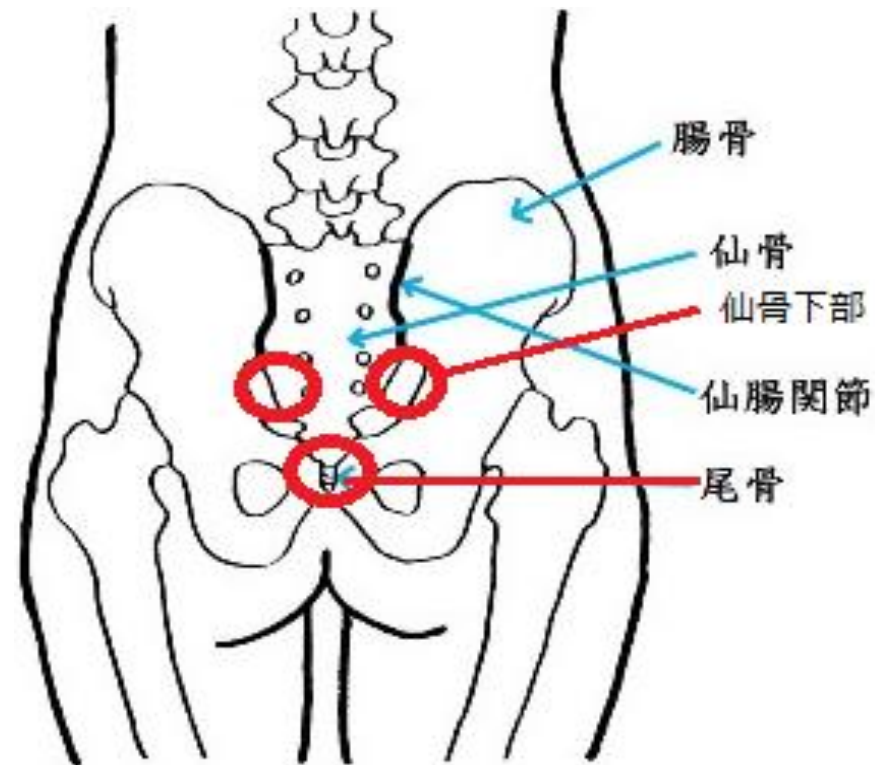
取り組み前(3ヶ月間)

褥瘡発生件数 **7件**



取り組み後(3ヶ月間)

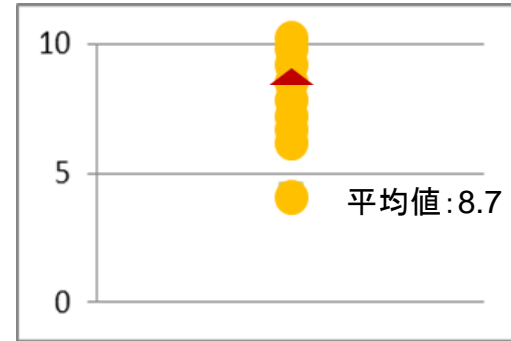
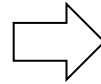
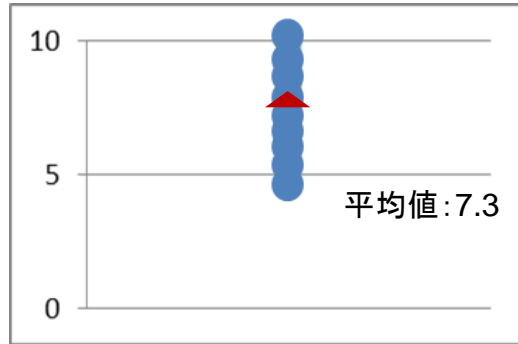
褥瘡発生件数 **4件**



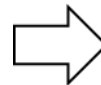
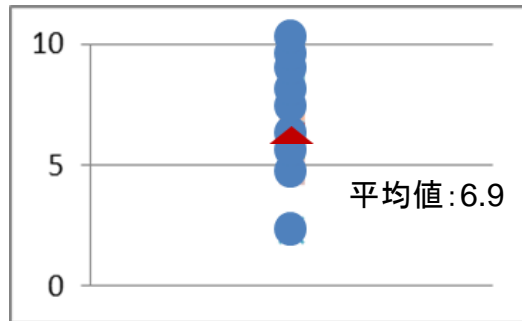


## 結果② 職員の意識調査について

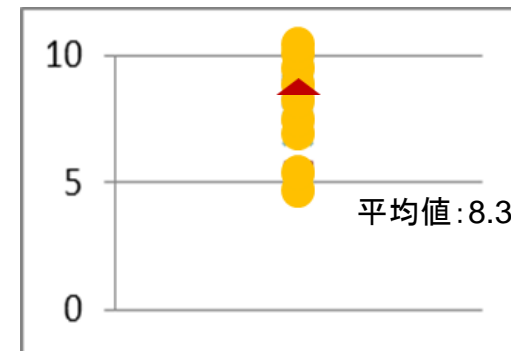
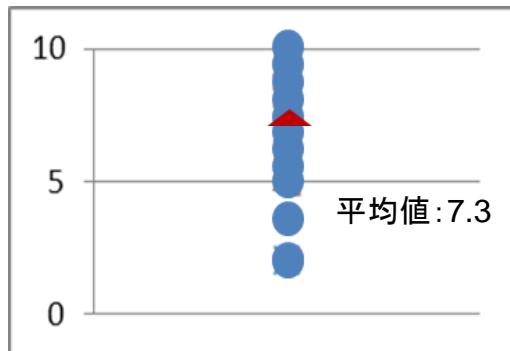
①「座り直しに対する意識はあるか？」



②「座り直しを積極的に行っているか？」



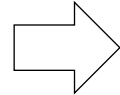
③「高リスク者の把握は出来ているか？」



# まとめ

## ○以前までの取り組み

- I : 施設内研修
- II : 車椅子座位の周知活動
- III : クッションや車椅子の選定

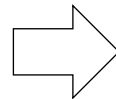


褥瘡保有者への対策にしか過ぎず、**高リスク者に対するの予防対策**は出来ていなかった。

褥瘡件数の減少に繋がらなかった

## ○今回の取り組み

- I : ①**高リスク者の検出**  
②**タッグ**の取り付け
- II : ①職員への意識調査  
②車椅子座位についての研修会を開催



仙骨下部及び尾骨部  
(褥瘡件数)

取り組み前 7件

取り組み後 4件

**高リスク者の把握・職員の意識向上**が可能となり、褥瘡予防の徹底に繋がった

# 終わりに

○今回、“褥瘡ゼロ”への新たな取り組みを実施し、発生者の減少に繋げることが出来た。

○未だ職員の予防に対する意識には向上と改善の余地もあり、「褥瘡ゼロ」へ向けた予防活動を今後も続けて行かなければならないと強く感じた。

